

山西省絶景探訪②

豊田美紀

山西省絶景探訪②

豊田美紀

11月のテーマは先月に引き続き山西省絶景探訪です。今月ご紹介する名所は双林寺と鎮国寺です。この二つのお寺は山西省の平遥(へいよう)という街にあります。

平遥は太原の南西90kmに位置します。太原から平遥には中国の新幹線「高铁」で行くことになります。太原南駅から乗車して平遥古城駅で下車します。40分ほどで到着します。高铁車内で乗務員の方に頂いたものの中に、山西省の路線図がありましたので、その写真を添付します。

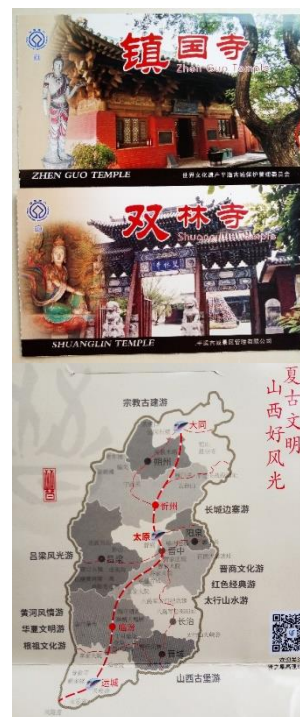
平遥の街はかつて古陶(ことう)と呼ばれたそうです。5世紀北魏王朝のときに平遥と改称されたということです。平遥は明代の城壁がほぼ完全な形で保存されている中国の唯一の街であることから、平遥古城という場所が1997年に世界文化遺産に登録されました。平遥古城については後日また改めてお話することになります。

平遥古城駅に到着した後、タクシーで双林寺と鎮国寺に向かいました。タクシーの運転手さんに観光ガイドを兼ねて二つのお寺に案内して頂くこととしました。

双林寺は、駅から平遥古城に向かう途中にあります。タクシーでの道すがら目を引く色鮮やかな建造物があり、運転手さんのお話を聞いて立ち寄ることになりました。

双林寺は原名を中都寺と呼んでいたそうです。残念ながら創建時代は不詳ですが修復記録が残っており、それによると571年に修理されたとのこと。その時から起算しても既に1400年以上の歴史を持つお寺ということになります。

現存する堂宇(どうう)と塑像(そぞう)は明代に作られたものが多くということです。伽藍(がらん)は天王殿、菩薩殿、大雄宝殿などが並んでいます。また、このお寺の四方は石壁で囲まれています。まるで日本の城壁のようなイメージでした。その壁の上を歩くことができるので広い境内を一望してきました。お寺の山門や壁、境内の建物の佇まいを拝観して、やはり



悠久中国の長い歴史を感じました。双林寺の門と境内の写真を添付します。

天王殿では四代金剛像を拝観することができました。迫力のある顔やお姿は圧巻でした。金剛像を拝観して日本史上の鎌倉時代の彫刻像を思い浮かべました。せっかくですので、金剛像の写真も添付します。

次に、鎮国寺についてお話しします。

鎮国寺は世界文化遺産に登録されています。タクシーの運転手さんから「お寺好きの人にお勧めの世界遺産になっているお寺がありますが、行ってみますか。」と案内を受けて、せっかくの機会なので訪ねてみることにしました。双林寺から郊外の方にどんどんタクシーが進んで行き、その車窓からは中国の農村部を垣間見、それを通り越して行くと世界文化遺産の鎮国寺がありました。このお寺は少し距離が離れているので、ツアーリストが個人で訪ねる場合はタクシーが便利です。



鎮国寺は原名を京城寺と言うそうです。創建は963年です。清朝時代に修復されているそうです。境内には14の建築が前後の二区画に配置されています。前院には山門、万仏殿、鼓楼、土地殿、二郎殿、三靈侯、財福神殿があります。そのうち万仏殿は後世の改修は経てはいるものの創建当初の様式を備えているとのこと。殿内の如来、菩薩、仏弟子など11の塑像は五代時期のものということです。万仏殿の写真を添付します。

後院には観音殿、三仏殿、菩薩殿、地藏殿などがあります。また三仏殿内には、明代の仏教故事の壁画が現存しています。この壁画は拝観できました。当時のものが現存していることが素晴らしいと感じました。やはり、ここでも悠久中国の歴史を感じました。

土地殿や地藏殿などは日本の寺院では見ないものでした。もう少し中国語が上達していたら、殿内の説明書をきちんと読んでその内容や歴史のことが分かるのに・・・と、とてももどかしい気持ちになりました。

興味・関心のある分野の事柄が日本語以外の言語で分かるようになると、旅の醍醐味を更に楽しめるように思いました。

引き続き中国語の勉強に精進します。

